

評価結果の政策への反映状況報告書

平成24年3月30日

政策の名称	政策の目的・目標	政策評価の結果の概要	政策評価の結果の政策への反映状況
<p>宮内庁の広報活動の推進</p>	<p>宮内庁ホームページを充実し、皇室に対する国民の理解が一層深まるよう関連する情報の提供に努めることを目的とした。</p>	<p>(必要性) アクセスログの解析結果によると、直帰数が大きく減少し、求める情報に到達する前に離脱していた訪問者が多かった状況にある程度改善することができたと考えられる。 また、総務省行政評価局による「高齢者・障害者等配慮設計指針」への対応状況に関する調査によると、宮内庁ホームページの非対応率は調査対象全体の中で相対的に低い結果となっており、バリアフリー化をある程度進めることができたものと考えられる。</p> <p>(有効性) アンケート結果によると、情報が分かりやすく分類されている、知りたい情報に容易にたどり着けるといった回答が高い割合を占め、皇室について幅広く基礎的な事項を紹介・解説する新規のコンテンツについてもおおむね肯定的な評価を獲得した。また、アクセスログの解析結果によると、平均PV数及び平均滞在時間が増加しており、宮内庁ホームページが活用される度合いが高まっていると考えられる。</p> <p>(効率性) 改修に係る契約については一般競争入札を実施し、経費の節減を図っており、また、改修により、掲載情報の更新・追加の作業を効率的に行うことができるようになっている。</p> <p>(今後の課題) 閲覧者の利便性の向上、バリアフリー化については、更なる配慮を続けていくこととし、現在評価されている点は今後も維持できるようにしたい。 また、掲載情報については、写真の掲載など、アンケートに寄せられた意見等を参考にしつつ、更なる充実化を図っていくこととしたい。 なお、アンケート結果によると、宮内庁ホームページを「見たことがない」という回答が多数あったので、周知方法の工夫を検討することとしたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> アンケートを踏まえ、写真を活用した掲載情報の更なる充実化として、平成23年11月9日より、「正倉院正倉整備工事」のコンテンツを新設し、大正時代及び現在の工事の様子を写真を用いて紹介している。また、平成24年2月22日より、「皇居東御苑の自然・生き物情報」のコンテンツを新設し、皇居東御苑の近況や野鳥の情報について写真を用いて紹介している。

政策の名称	政策の目的・目標	政策評価の結果の概要	政策評価の結果の政策への反映状況
<p>I Tを活用した正倉院宝物の紹介</p>	<p>正倉院宝物の調査研究資料を広く一般に紹介する正倉院ホームページ及び正倉院宝物管理システムを改修し、掲載情報を充実させることにより、正倉院宝物に対する国民の理解と関心の増進を図ることを目的とした。</p>	<p>(必要性)</p> <p>今回聴取した学識経験者の意見において、リニューアルによる情報提供の充実化について、有意義であったとの評価がなされている。また、アクセス件数を見ると、開設時よりも今回のリニューアル時の方がはるかに高い数値となっており、開設以降、正倉院宝物に接する手段として正倉院ホームページの存在が広く認識され、同ホームページによる情報提供に対する需要が高い状態にあったことを裏付けるものと考えられる。</p> <p>(有効性)</p> <p>学識経験者の意見においては、宝物の検索を簡単に行うことができる、宝物に関する情報が充実・向上している、世界的な学術的価値を有するデータの公開であり格段の意義を持っている等の評価がなされている。また、アクセス件数を見ると、1人当たりのページビューがほぼ10を超えており、利用者がコンテンツをある程度活用していることを裏付けるものであると考えられる。</p> <p>(効率性)</p> <p>旧システムの運用経費は1月当たり約1,108千円であったが、新システムは1月当たり約624千円で契約しており、大幅なコスト削減となっている。</p> <p>(今後の課題)</p> <p>紹介する正倉院宝物の点数については、平成22年度の時点で439点となったが、今後3,000点を目標として、毎年度100点から200点の追加を行うこととしたい。</p> <p>また、部分写真の追加については、定期的に追加する準備が整ったので、順次対応していくこととしたい。宝物名の英語表記は必要であるとの指摘については、将来的に英語版ホームページを構築することも含めて、今後検討していくこととしたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 平成23年度中に『正倉院紀要』最新号や宝物の部分写真579点を追加掲載した。 来年度以降も、毎年、宝物100～200点、写真200～300点程度を追加掲載するため、準備を進めている。